



発行：相模原災害ボランティアネットワーク ホームページ：www.sagami-portal.com/hp/dnt101144
連絡先・お問合せ先メール：ssvn00000info@gmail.com

代表挨拶

3年以上続いた新型コロナウイルスもようやく5類以降に向かい、当会の活動も活発化して行こうという矢先、本年元旦に能登半島地震(内陸地殻内地震)が勃発し、地形的な面から重機が入れない、インフラ復旧が進まない状況で災害ボランティアも入れない事態が続きました。相模原市ではどうかと考えながら、改良を加えつつ活動を進めていきますので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

FM さがみに出演

令和6年2月13日に広報誌の印刷、総会資料の印刷製本の為に加しているサポセンより、登録団体の紹介コーナーに出演依頼がありトークショーに参加しました。トーク内容は、阪神淡路大震災の4年後に発足、災害時は社協と共に災害ボランティアセンターを立ち上げ運営し、平時は4月市さくら祭り、9月市防災訓練、11月サポセンフェスタに参加、市民啓発活動、その他養成があれば、自治会避難所運営訓練の支援、中学生の出前講座をしている団体で、災害ボランティアコーディネーター養成講座を開催し会員を募っている団体である事をお話ししました。



災害ボランティアセンター

立ち上げ訓練

令和5年6月11日、ICTを活用した災害ボランティアセンターのあり方を学ぶべく立ち上げ訓練を行いました。関連団体を交え総勢27名が参加し、災害ボランティアセンターの一連の流れをスマホからQRコードを読み込む事により確認出来、手作業の多いセンターの業務が大幅に簡素化でき、日々の活動報告も効率化を図れることが予想され9月の防災訓練に繋がられる検討材料の一つになりました。



令和 5 年相模原市総合防災訓練

(九都県市合同防災訓練)9 月 1 日

本訓練は相模原市地域防災計画に基づき大規模地震発生時に災害応急対策を図るため、市民、防災関係機関が協力して総合的な訓練を行うもので、特に本年度は相模原市が九都県市合同防災訓練の幹事都市として、相模総合補給廠一部返還地において行われました。

SSV は市社協と協力して災害ボランティアセンターを設置し、ボランティアの派遣訓練や災害ボランティアに関する展示を行いました。

活動内容は

1)ICT を活用した災害ボランティアセンター設置運営と活動シミュレーション

+大規模災害が発生したという設定で、災害ボランティアセンターの設置運営訓練を行い、ICT システムを活用したボランティアのスムーズな受け入れや、災害時に収集が必要な情報について学ぶ

2)災害ボランティアセンターパネル展示
+会場内に設置した災害ボランティアセンターにおいて「受付→マッチング→資機材貸し出し→帰着」という一連の流れを体験する
+令和元年に設置した災害ボランティアセンターの実際の活動風景を展示し、活動者による解説を行う

3)防災関連団体による展示

相模原青年会議所のメンバーによるシグナルスカーフの展示・使用説明がありました。

当日は 100 名を超える来場者が受付登録訓練に参加頂き活況でした。



団体会員ご紹介

かながわ「福島応援」プロジェクト

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)は、2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原発事故により大きな被害を受けた福島県内でのボランティア活動と、神奈川県内に避難されている方へのお手伝い、情報発信の3つを柱として、「神奈川から福島を応援する」ために活動を続けています。

kfopのメンバーはそれぞれ個人の意思で集まり、ボランティアとして活動しています。スタッフ、参加者ともに無理をせず、できることを、できるときに、できる範囲で活動することを前提としています。

福島の方々は、直接的な被害のほか、風評被害、観光の打撃など、大きな苦難の中にあります。復旧・復興が進むためには、まだまだ皆様のご支援が必要です。

私たちは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によりいまだ大きな苦難の中にある福島を長期にわたって応援し続けるために、持続可能な事業計画と予算計画を立てて団体としての活動を維持します。

いずれの活動についても、当事者の方々が必要とする支援や環境は時間とともに変化します。

特に相双地域では避難区域の解除が進み、様々な課題が発生してくると見られます。そうした変化を理解し、柔軟に対応できる体制、予算的な余裕、他団体とのつながりも必要です。

その一貫として、現地の状況を把握するための情報収集、現地の行政や民間団体とのつながりの維持を目的とした現地訪問や会議への参加も積極的に行います。



サポセンフェスタ

2023年11月5日相模原市淵野辺公園の中央広場において「さがみはら市民活動フェスタ2023」が開催されました。内容は来場者のためにコーヒーと綿あめの販売、SSVNの活動紹介、チラシの配布です。コロナ禍のため4年ほど綿あめ機や発電機は使用しなかったため、発電機は修理・調整し、綿あめ機は新規購入をしました。さて、当日は快晴で多くの参加者が来場しました。

いつものように綿あめには子供たちが並ぶので、防災クイズをして待ち時間に退屈しないような工夫をし、クイズに参加してくれた子どもさんには記念品を渡しました。綿菓子は用意したザラメが無くなり午後3時頃には販売終了になりました。

活動紹介パネルで数年前に相模原が土砂崩れでの被災の様子を見て改めて災害の怖さや被災者支援の重要性を知ったという来場者の声がありました。フェスタの最後には小野寺代表の閉会のあいさつでフェスタも無事終了しました。

会員の参加者6名、応援顔出しお手伝い4名にてコーヒー48杯、綿菓子230本で無事終了致しました。改めてお手伝い頂いた会員の皆様には感謝いたします。

なお、さがみはら市民活動フェスタ2023は情報紙「さぽせんナウ」2023年12月第106号に詳細が掲載されています。



スキルアップ研修会

【中学生にもわかりやすい HUG(避難所運営ゲーム)の工夫】令和5年9月30日(土)

SSVN は「みんないいひと体験講座」(相模原市社協主催 市内中学1年生対象)の防災部門を担当しています。学校より避難所運営ゲームの依頼があると、運営方法を学ぶゲームをします。

ただ、このゲームは進め方によっては、時間がかかる、わかりにくい、終わった後”もやもや”が残り疲れるだけという事が起きます。わかりやすく指導できる講師を育成するための講座です。

この講座では、避難所を運営するための基本的なスキルや考え方を学びます。具体的には以下の内容をカバーします：

1. 避難所の基本的な機能の理解
2. 安全と健康の確保
3. チームワークと協力の重要性
4. 緊急時の対応と効果的なコミュニケーション
5. 地域の危険性の特色とそのための準備



スキルアップ研修会2

【ICTを活用した災害ボランティアセンターの運営についての研修を実施】

令和5年12月2日(土)、SSVN会員が災害ボランティアに関する知識や技術を養うことを目的とした「会員スキルアップ研修」を開催しました。

今回は、相模原市社会福祉協議会の里吉氏が講師となり、災害ボランティアの現場で活用が広がっている情報技術「kintone(キントーン)」の概要・メリット等に関する学習や、kintoneを活用した災害ボランティア手続きの体験を行

いました。

Kintone は、大災害が起きた際に一人でも多くの被災者に支援が行き渡るよう、災害ボランティアセンターにおける登録手続きや現地調査、情報管理等を正確かつ効率的に行えるようにするもので、スマートフォンや iPad 等の現代機器をフル活用しています。時代の最先端に付いて行くのは大変ですが、SSVNにおいても使いこなすための努力が必要と感じましたので、これから皆で頑張っ



街頭募金

能登半島地震で被災された方々に義援金を贈るべく相模大野駅コンコースで街頭募金を行いました。陽が当たらず寒い日でしたが多くの方の善意に触れられ有意義な活動が出来ました。

【編集後記】

「震災は忘れた頃にやってくる」をまさに感じた令和6年の正月でした。これからも防災・減災のための活動を行っていきます。

皆様の参加をお待ちしています。(文責 越山滋雄)

連絡先・お問合せ先メール:

ssvn00000info@gmail.com